

ヒトが生きていくうえで最も大切なことなの呼吸、すなわち息をすることです。息の音が止まると生命はおしまいです。息の音は、鼻孔で生ずる肺の外呼吸の空気吸入音のことです。ヒトの外呼吸には「鼻呼吸」と「口呼吸」があります。哺乳動物で「口呼吸」が可能なのは、人類だけです。

他の動物は、類人猿といえども口呼吸ができません。これは、人類だけのもつ行動様式の「ことばの習得」による口腔・咽喉部の変形によって起こった、人体のもっとも弱点となっている構造欠陥部分です。呼吸は、動物が生きていくうえでもっとも重要な運動ですから、どんなときでも鼻呼吸が保証されていて、後鼻孔と気管が管でつながっていて、物を嚥み込むときも食物が空気を通る管の両脇を通っていきます。動物の骨格構造の筋肉・腱・軟骨・骨は、反復性の定まった動きで形がほとんど縮んでいきます。これはウォルフの法則（骨格の機能適応形態）と呼ばれています。これにより、ヒトの気管と後鼻孔につづく口蓋垂のつながりが徐々に離れ始めたのが数百万年

①鼻呼吸と口呼吸

免疫力があがる鼻呼吸

前です。こうして口呼吸が可能となって同時に食べるときに餅がつかえて死ぬという事故が生ずるようになったのです。このように脊椎動物の進化は、重力作用に基づく身体の使い方によって用不用の法則（ラマルク）に則って起こり、この使い方というソフトの情報を何らかの形（教育や環境因子）で次代、次々に伝えれば、同じ遺伝形質のまま変形が累代にわたって伝えられます。

人工骨髄造血装置と哺乳動物の人工歯根という二種類のハイブリッド型の人工器官を生体力学エネルギーによって開発することになり、これにより世界にさきがけて進化の謎を解明し、これで口呼吸の謎も免疫病の謎も解けたのです。人類だ

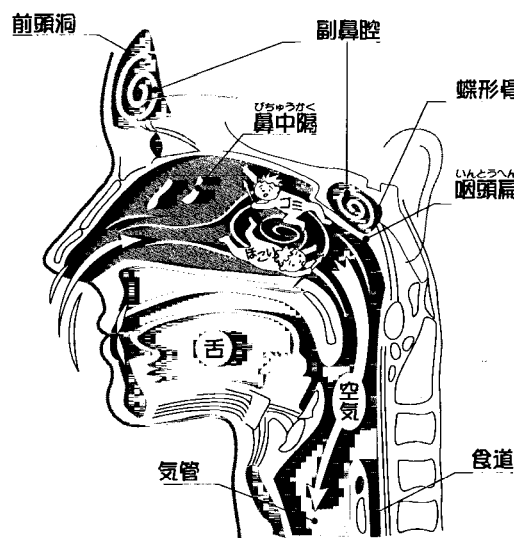
けにしかできない口呼吸で、一般に人類のみにしか起こらない喘息、リウマチ、糖尿病、膠原病、心筋症、網膜症、レーノー症、サルコイドーシス、高安病、川崎病、精子減少症、子宮内膜症、妊娠中毒症などが起こることが明らかになりました。鼻だけで深い横隔膜呼吸を続けて、冷たい物中毒から脱却してすべて四〇℃の物を飲食し、三〇回側咀嚼をして、常に体を温かく保ち、一日に最低八時間の骨休めをして一日の疲れを一晚で回復し、なお余力を残すような生活をすれば、決して免疫病になることはありません。鼻呼吸が免疫力を強化するのではなくて、口呼吸が万病のもとなのです。鼻呼吸で、一般の哺乳動物並の普通の免疫力になるのです。野生の動物は環境が保た

れば普通病気にはなりません。

どうして口呼吸がいけないのかを説明する前に、今の免疫学がダーウィンの進化論と同じ、錯覚と誤謬のうえに成り立っている大人のおとぎ話であることをご理解ください。今の臓器移植術に基づいた「自己非自己の免疫学」では、これらの免疫病は治せません。自分の白血球が自分の細胞を攻撃する免疫の反乱というのが、自己免疫病とされ、学者も混乱して、訳が解らなくなつて、世界中の医学者がこの誤った免疫学のもとで免疫病が治せなくなつてしまつたのです。これは、動物の組織を他の動物に移植したときに起こる白血球の組織免疫反応だけにとらわれて病気を考えたために起きた、病態認識の誤りによつてできた医学や医療とは無縁の錯覚と迷宮の実験免疫学だからです。免疫病は移植手術療法とはほとんど無縁の生命体のエネルギー代謝の乱れによつて起ります。

むずかしい話はあとまわしにして、まず鼻と口の構造から、鼻(美)呼吸と口呼吸の違いについて述べましょう。二つの鼻の孔のなかの腔洞を鼻腔といいます。この腔洞はボール紙ほどのうすい骨で囲まれてい

て、左右四対の大きな腔洞(副鼻腔)と内耳につながる耳管があります。この腔洞も、内耳も耳管もすべて繊毛上皮というこまかい毛のある呼吸細胞でおおわれていて、皮膚呼吸のように粘膜呼吸をしています。副鼻腔の脇を通つて鼻腔内を奥に進むと後鼻孔の咽喉部に、五種類の扁桃組織があります。これは白血球造血器の一種です。鼻呼吸では、鼻孔の大きさが重要です。日本人の鼻孔は小さく、吸気時に孔を拡大することができない人もたくさんいます。ノーズリフトで鼻を高くして鼻孔を拡大する必要があります。鼻孔から吸入した空気は、鼻腔を通るときに副鼻腔に貯まっている温かく湿つた空気と瞬時に渦巻状に入れ替わつて扁桃部に接触し、吸気が気管に入りますから、バイ菌やダニの殻やホコリは鼻汁にからめ取られて一〇〇%加湿された吸気が気管を通つて肺に達します。呼気が鼻腔を通るとき、細胞から直接排出された三七℃の炭酸ガスを含む空気の熱は、副鼻腔で回収されますから鼻からの呼気は口から吐く息より低い温度となります。鼻腔の空気は嚙下のたびに耳管を通つて内耳にも達しますから、ここでも呼吸上皮が酸素を吸収し



ます。鼻を使わない口呼吸では加湿も浄化もされない空気がいきなり気管に入りますから、口蓋扁桃が炎症をおこし、頸部リンパ節が腫れると腫れてきます。口呼吸で鼻に空気を通さないと、鼻腔の呼吸上皮と扁桃の全表面に涙がこびりついて乾燥し、バイキンが繁殖して炎症を起します。こうして、粘膜が腫れて肥厚性鼻炎を生じ鼻も喉もバイ菌の巣になると、扁桃組織の白血球が運び屋となつてバイ菌を体中にばらまくのです。病原性のない常在菌が体の組織や器官の細胞に感染をおこす不顕性(はっきりしない)感染が免疫病の本態です。こうして口呼吸で免疫病がおこります。